

アイデアコンペティションの図面にみられるコラージュ表現 ー建築プレゼンテーションの形式に関する研究ー

The Organization of Architectural Design Competition Drawings with regards to Collage A Study on the Form of Architectural Presentation

奥山研究室 10M30394 森安 洋幸 (MORIYASU, Hiroyuki)

Keywords：アイデアコンペティション、コラージュ表現、図面表現、建築プレゼンテーション
competition, collage, drawing, presentation

1. 序

ドローイングや模型写真などによる建築プレゼンテーションは、ペーパーアーキテクトという言葉が成立してきたように、実際の建築をつくることと同等に建築家の表現活動の重要な一側面を形づくってきた。こうした活動のひとつにアイデアコンペティションがあげられ、そこでは建築家を志す若き才能による新たな空間を示唆する図面表現をみることができる。それらは表現の異なる様々な図面によって構成され、図面自体を個々の提案の主要な意味を担うものとしながらも、図面相互の隣接性や重層性を生み出すコラージュ表現によって、様々な提案を通底する形式的な枠組みを見出すことができる。そこで本研究では、雑誌に掲載された現代のアイデアコンペティションにおける入選案を資料¹⁾とすることで、建築プレゼンテーションにおける図面表現の形式性の一端を明らかにすることを目的とする。

2. 単位図の描画内容と配列形式

2.1 単位図の抽出と単位図の描画内容 資料とするコンペティションの図面を構成する個々の図を単位図²⁾と定義し、図面を構成する基本単位とする。まず単位図の種類を提案される建築が表される建築表現図と建築に関する補足的な情報を表すイメージ表現図に分類した(図2)。建築表現図は二次元的に表現された平面表現と三次元的に表現された立体表現に分けた。次に建築表現図に描かれている内容を描画対象と描画範囲から検討する(図3)。描画対象を部分と全体、描画範囲を内部、内部と外部、外部に分類した。その結果、まず平面表現においては全体の内部を描画するものが多くみられた(785/1166)。立体表現においては描画対象によらず外部が多くみられた(341/983、347/1232)。

2.2 配列による単位図のまとまり プレゼンテーションの図面には、複数の単位図を規則的に並べることで単位図をまとめる表現がみられた。それを単位図の配列形式として整理した

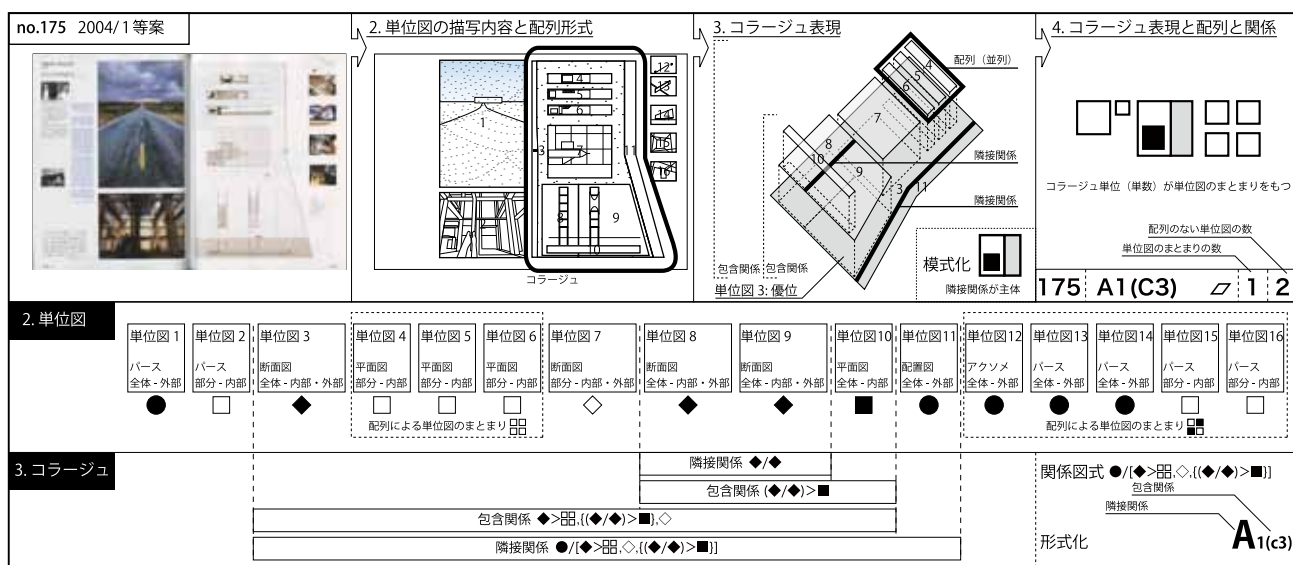


図1 分析例

(図4)。配列形式には等しい大きさの単位図が等間隔に並んでいる〔並列〕と、形の異なる単位図が複数集まり単純な矩形をつくる〔整形〕の2つがある。また、〔並列〕は3つ以上の単位図が一軸上に並んでいる〔並列一軸〕と単位図が二軸上に並んでいる〔並列二軸〕とに分類した(図4)。その結果、単位図の配列形式では〔並列一軸〕が最も多くみられた。

3. コラージュ表現

コラージュ表現は複数の図を相互に関係付ける表現である。例えば図1は1つの断面に対して、複数の図面が重なり、隣り合うような複数の操作の複合によって構成される。この章では前章で捉えた単位図をもとに関係付けられた1つのまとまりにおけるコラージュ表現の形式を抽出しその性格を明らかにする。

3.1 コラージュ表現の構成要素 コラージュ表現の構成要素を単位図単体、配列形式による単位図のまとまり、背景の3種類に定義した(図5)。

3.2 コラージュ表現の形式 構成要素相互の重層性や隣接性から、コラージュ表現の形式を整理した(図6)。コラージュ表現の形式の種類を一方の構成要素が他方の構成要素を内包するように重なる【包含関係】、構成要素同士が部分的に重なる【部分重複関係】、構成要素同士が境界を共有し隣り合う【隣接関係】の3つで捉えた。(以下【包含】、【重複】、【隣接】とする)

3.3 コラージュ表現の優位性 構成要素同士の上下関係と大小関係から、どの構成要素が優位となるかを検討した(図7)。2つの構成要素によるコラージュ表現において、【包含】では包含する下の構成要素が優位であり、【重複】では原則上に重なる構成要素が優位であり、【隣接】では大きい方の構成要素が優位であると設定する。また3つ以上の構成要素を関係付ける場合、最も多くの構成要素と関係をもつ構成要素が優位であるとする。構成要素が背景の場合は形式によらず他方、または次に他の構成要素と関係が多いものが優位であるとする。

3.4 コラージュ表現の組み合わせと優位性の関係

コラージュ表現により関係付けられた構成要素のまとまりをコラージュ単位³⁾として定義する。コラージュ単位の性格を検討するため、コラージュ表現の形式の組合せと構成要素の優位性の関係を図8に表している。異なるコラージュ表現の形式が複合して構成要素を関係付けるコラージュ単位は、優位性のある図をもつコラージュ表現に着目して整理している。【包含】が主体となるコラージュ単位には、構成要素単体を内包するもの、複数の構成要素を内包するものが一定数みられた。また、

建築表現図			イメージ表現図
平面表現	1354	立体表現	1444
910			
*	p 平面図 686 s 断面図 393 e 立面図 214 si 配置図 61	pe パース 1071 a アクソメ 373	参照図 i コンセプト図 周辺 グラフ

図2 単位図の種類

描画対象			
部分 983		全体 1232	
平面表現 381	立体表現 602	平面表現 785	立体表現 447
内部 735	内部・外部 421	外部 1059	
195	175	331	34
86	88	181	66
341	98	273	347
① 部分・平面・内部	② 部分・立体・外部	③ 全体・平面・内部	④ 全体・立体・外部

図3 建築表現図である単位図の描画内容

並列		整形
一軸	二軸	
177	41	16
1軸上に大きさと形状の等しい3つ以上の単位図が並列に並んでいるもの	2軸上に大きさと形状の等しい単位図が並列に並んでいるもの	大きさの異なる単位図があつたことで整形された一つの輪郭をつくるもの

図4 単位図の配列形式

単位図単体		単位図のまとまり(並列)				背景
建築表現図	イメージ表現図	建築表現図	イメージ表現図	建築表現図	イメージ表現図	
部分	全体	部分	全体・部分	全体	全体	
						*

図5 コラージュ表現の構成要素

包含関係 内包し重層する	部分重複関係 図の部分が重層する	隣接関係 境界を共有
90	53	55
記号 ① > ②	記号 ① × ②	記号 ① / ②

図6 コラージュ表現の形式

1組の構成要素			2組以上の構成要素
包含関係	部分重複関係	隣接関係	
下の図が優位	上の図が優位 ※上の図が輪郭に小さい場合下の図が優位	大きい図が優位	結合数の多い構成要素が優位
※ただし一方が背景の場合、もう一方の図が優位			

図7 コラージュ表現における図の優位性

図8 コラージュ表現の組み合わせと優位性の関係

圖 10 通時的傾向